

## 令和8年度 学校経営計画書

学校番号	63	学校名	静岡県立袋井高等学校	校長名	藤村 寿一
------	----	-----	------------	-----	-------

### 1 スクール・ミッション

磐周地区の地域に密着した全日制普通高校として、校訓「自立・連帯・敬愛」のもと、教科学習だけでなく地域やグローバルについての探究活動やこれからの多様な学びを求める大学進学への対応を通して、生徒自らが主体的に活動し、他者と協働しながら、将来地元地域や国際社会に貢献する人材の育成を目指す。

### 2 目指す学校像

○育てたい生徒像 『主体的に取り組み成長する生徒』

○目指す学校像 『生徒の可能性を広げる学校』

#### (1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>変化の激しい社会において、自ら主体的に取り組み、他者と協働し、積極的に貢献できる人材の育成を目指し、次の4つの力を育む。</p> <p>(1) 自ら課題を発見し、解決に向けて論理的に思考し判断する力。</p> <p>(2) 科学的な視点で物事を探究し、新たな価値を創造する力。</p> <p>(3) 自らの考えを的確に表現し、他者に向けて発信する力。</p> <p>(4) 健やかな心身と、互いを敬愛し連帯する力。</p>	<p>普通科高校として、共通教科・科目等を中心に多彩な選択科目を配置し、生徒一人ひとりの進路実現にこたえるカリキュラムを編成し実践する。</p> <p>(1) 探究活動を中心とした教科横断的な教育活動と系統的な教科学習をおして、「主体的で対話的な深い学び」を実践する。</p> <p>(2) 大学・企業・自治体等の外部機関と連携し、課題発見型の探究活動と自身のキャリア形成を実践する。</p> <p>(3) ICT活用、フィールドワーク、プレゼンテーション、グローバルプログラム等多様な学びを取り入れることで、多様な価値観を理解し、互いに認め合う関係を築く。</p> <p>(4) 学校行事や部活動等を生徒主体で運営することで、生徒の主体性を育み、個々の成長を促す。</p>	<p>確かな基礎学力と高い志があり、粘り強く学び続ける意欲をもった生徒を求める。</p> <p>(1) 大学進学を目標に、確かな基礎学力をもとに、多様な学びに対して主体的に取り組む生徒。</p> <p>(2) 向上心を持ち、社会貢献を目指して努力する生徒。</p> <p>(3) 多様な人々と協働しながら新たな価値観を生み出すようとする生徒。</p> <p>(4) 学校行事や部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組む生徒。</p>

#### (2) スクール・ポリシー具現化の柱（取組目標）

- ア 生徒の「志」を育てながら、進路実現に向けたきめ細かな進路指導を推進する。
- イ 基礎・基本と自律的学習習慣を身につけるため、予習・復習の習慣と生徒自身の振り返りを奨励する。
- ウ 授業研究、ICT、教育研究の知見、学びの基礎診断等を活用して時代に合った授業改善を推進する。
- エ 部活動、学校行事、HR活動、生徒会活動等をおして文武バランスの取れた学校生活を送れるようにする。
- オ 挨拶、身だしなみ、言葉遣い、清掃、自律的な生活等の基本的な生活習慣の確立をおして生徒の公共性と自律心を育てる。
- カ 読書、ボランティア活動、地域活動、国際交流、大学連携等をおして地域や国際社会で活躍できる知見と豊かな人間性を育成する。
- キ 生徒・職員の安全・安心な生活環境を整えるとともに、有用な予算の執行に努める。
- ク 業務の効率化と精選に努め、多忙化を解消する。
- ケ 保護者、近隣学校、地域との連携を深めるとともに、積極的な情報発信に努める。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	生徒の「志」を育てながら、進路実現に向けたきめ細かな進路指導を推進する。	1年：自分の進路を見据えた主体的な文理選択を行う。 2年：大学進学を見据え、HR活動、集会、面談、オープンキャンパスなどを活用した進路選択を行う。 3年：生徒が進路実現に必要な準備と実践ができるように個々の志望に合わせた情報提供と助言を行う。	1年：「自ら進路について考え、文理選択を行えた」と答える生徒90%以上。 2年：「自分の進路希望に合ったコース・科目選択ができた」と答える生徒が90%以上。 3年：「進路実現に必要な情報を収集し、志望校合格に向けた計画と準備ができている」と答える生徒90%以上。	各学年
		補講や進路学習、進路講演会を実施し、生徒が進路実現に向けた目標設定と学習ができるよう支援する。	「補講や進路学習、進路講演会は、進路目標達成のために役立っている」と答える生徒70%以上。	進路研修課
		生徒が模擬試験、学びの基礎診断等を活用して自分の学力を的確に把握し、自ら学習方法の改善に努めることができるようになる。 各教科で模擬試験の事前・事後指導を実施する。	「外部模試等の結果をその後の学習に生かすことができた」と答える生徒が70%以上。 主な模擬試験について事前・事後の指導を行う。	進路研修課 各教科
イ	基礎・基本と自律的学習習慣を身につけるため、予習・復習の習慣と生徒自身の振り返りを奨励する。	学年段階に応じた適切な授業実践と家庭学習課題提供をとおして、生徒の自学自習の習慣化を目指す。	「自分で計画を立てて目標の家庭学習時間1・2年生（平日：2時間、休日3時間）3年生（平日4時間、休日6時間）を確保できた」と答える生徒70%以上。 「学習方法の見直しや改善ができている」と答える生徒80%以上	各学年 各教科
		生徒が自分の学力を的確に把握するための評価を行い、個票等を迅速に提供する。	「通知表、成績個票等により自分の学力と課題を把握できた」と答える生徒90%以上。	教務情報課
ウ	授業研究、ICT、教育研究の知見を活用して時代に合った授業改善を推進する。	課題発見型・デザイン思考の探究活動をとおして生徒が主体的に考え、社会をまなざし、情報発信できるようになる。	「探究の時間は生徒の意識の啓発につながっている」と答える教職員80%以上。 「探究活動をとおして自分の興味や関心を深めたり、広げたりすることができた。」と答える生徒が90%以上。 校外での課題発表大会や探究型の研修会に参加する生徒50人以上。	進路研修課

様式第1号

エ	部活動、学校行事、HR活動、生徒会活動等をとおして文武バランスの取れた学校生活を送れるようにする。	部活動に主体的に取り組む環境を整えるとともに、午後7時30分完全下校を徹底し、家庭学習時間を確保する。	「部活動に主体的に取り組む充実している」と答える生徒が70%以上。 「19時30分までに完全下校した」と答える生徒が95%。	生徒課
		学校行事や生徒会活動への取組をとおして生徒の主体性、創造力・企画力・運営力、協働性を育む。	「部活動、生徒会活動、探究活動、学校外の各種活動に積極的に取り組んだ」と答える生徒が85%以上。 「学校行事や生徒会活動への取組をとおして創造力・企画力・運営力、協働性等が向上した」と答える生徒80%以上。	生徒課
オ	挨拶、身だしなみ、言葉遣い、清掃、自律的な生活等の基本的な生活習慣の確立をとおして生徒の公共性と自律心を育てる。	日常指導、HR活動、面談、集会などを通じて規範意識、挨拶の励行、適切な言葉遣いなどの社会性を身につけさせる。	「生徒心得に沿ってルールを守って生活できた」と答える生徒85%以上。 「明るい挨拶や相手を思いやった言葉遣いや行動ができています」と答える生徒85%以上。	生徒課
		一旦停止義務違反の撲滅を安全教室や交通指導をとおして重点的に指導する。	「一旦停止無視をしないなどの交通ルールを守って登校している」と答える生徒90%以上。	
		ポスター掲示、清掃重点箇所の提示や委員会による清掃点検を定期的実施し、委員会が中心となり美化意識を高める。	「清掃時に級友と協力して、担当場所をきれいに清掃できた」と答える生徒80%以上。 「みんなが使うものを大事に使うことができています」と答える生徒が90%以上。	保健厚生課
カ	読書、ボランティア活動、地域活動、国際交流、大学連携等をとおして地域や国際社会で活躍できる知見と豊かな人間性を育成する。	グローバル社会にふさわしい国際交流活動を計画・実践する。	国際交流活動プログラムを企画・運営する。 校外の国際交流プログラム、留学に関する情報提供を充実させる	進路研修課
		朝読書やオリエンテーションの実施により自ら必要な資料・情報を探せる技術を身につける機会とする。読書ノートの利用や入試・小論文対策図書等の広報を通して生徒の読書活動をサポート、推進する。環境整備と広報活動に努めるとともに図書委員会活動を充実させ来館者数を増やす。	図書館の本の貸出冊数が平均3.5冊以上。 「学校図書館は学習活動の充実に役立っている」と答える教職員90%以上 「学習活動等の学校生活に役立っている」と答える生徒80%以上。	図書課
キ	生徒・職員の安全・安心な生活環境を整えるとともに、有用な予算の執行に努める。	「朝の健康観察」「こころの健康調査」「保健室だより」等を通して、心身の健康増進に取り組む、職員との連携・情報の共有を図る。	「朝の健康観察」を毎日、「こころの健康調査」を年1回「保健だより」を年3回発行して、生徒の健康増進の啓発を行うとともに、教員間で情報共有を行う。	保健厚生課

様式第 1 号

キ	生徒・職員の安全・安心な生活環境を整えるとともに、有用な予算の執行に努める。	落ち着いた学校生活・友人関係構築に向けた教育相談や特別支援の体制を作り、早期の段階で対応する。	「悩みがあるときに、学校内外に相談できる人がいる」と答える生徒が 75%以上。 職員の共通理解に基づき、思いやりと規範意識を育む指導を通して、いじめの未然防止に努める。 年 2 回の「いじめアンケート」を実施して、早期発見、組織的な早期対応を実施する。	保健厚生課 生徒課
		実践的な防災訓練や防災学習の実施等により、生徒・職員の防災意識をより高める工夫をする。 「危機管理マニュアル」「防災計画」を適宜改定し、各自の役割や対応が合理的に割り振られている。	大規模地震等に対する防災意識が高まり、自分でできることを実践している」と答える生徒が 80%以上。 「危機対応時における対応の仕方を理解している」と答える教職員 90%以上。	総務課 管理職
		「チーム袋高」として、教職員が協働的な教育活動・事務経営を行い、ワークライフバランスを向上させる。	最終退校時刻を 20 時に設定し、例外を除いて、これを遵守する。	全職員
		施設・設備・物品の整備についていち早く危険個所や不具合を発見・対応するとともに、環境整備や美化に努める	施設・設備・物品の整備・美化に努めている」と答える教職員、保護者 80%以上。	事務室
		学校の窓口として、常に丁寧な対応を心掛け、来客や外部からの問い合わせ等に速やかに対応する。	「学校の窓口として適正な対応をしている」と答える教職員、保護者、生徒 85%以上。	事務室
ク	業務の効率化と精選に努め、多忙化を解消する。	放課後の時間を確保するため、教育課程の運用改善を検討する。	令和 9 年度からのカセット方式の運用を実現するため、検討及びシミュレーションを行う。	全教員 管理職
ケ	保護者、近隣学校、地域との連携を深めるとともに、積極的な情報発信に努める。	P T A 活動を見直し、持続可能な活動にする。	「本校の P T A 活動が適宜見直され時代に合ったものになっている」と答える保護者 80%以上	総務課
		情報発信・わかりやすい学校行事案内の作成に努める。	「学校生活の様子及び諸情報がよく伝わっている」と答える保護者 80%以上。	
		中学生一日体験入学、公開授業の円滑な運営を行う。	「一日体験入学に満足した」中学生が 70%以上。中学生の一日体験入学参加が 700 人以上。	総務課 管理職